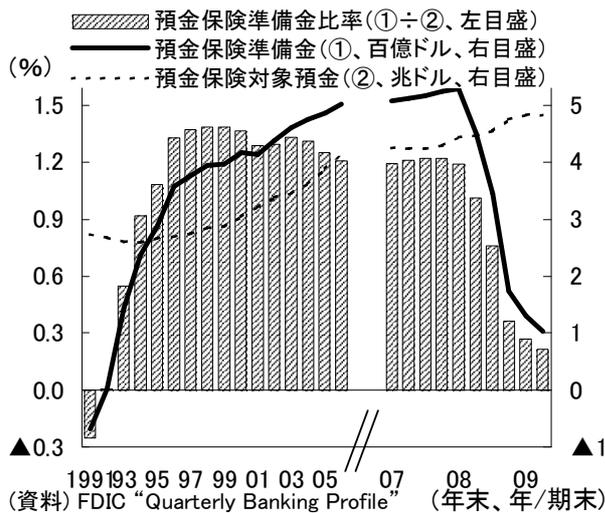


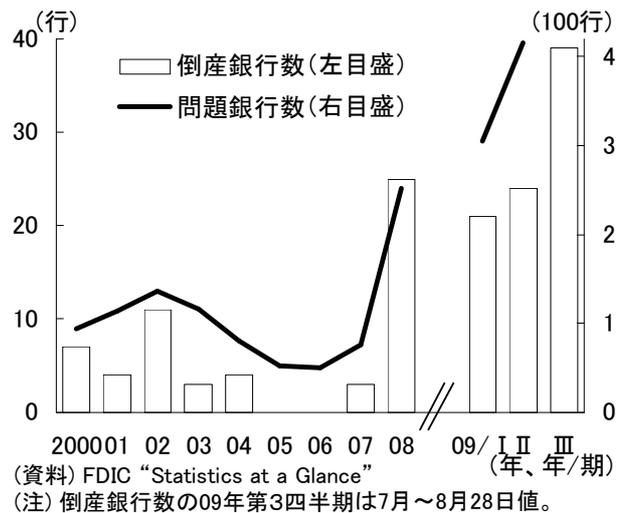
## 深刻化に向かう米国金融問題 ～ 景気底入れ判断は依然時期尚早 ～

- (1) 昨年入り後、米国預金保険準備金が急減（図表1）。預金保険対象預金残高に対する準備金の比率は本年6月末時点で0.2%まで低下。
- (2) 主因は銀行倒産の増加によってハイペースで進行する準備金の取り崩し（図表2）。銀行倒産件数は本年に入り増勢に拍車。7月1日～8月28日の2カ月間で39行が倒産。問題銀行数も本年6月末時点で416行へ急増。
- (3) 根底には景気悪化に伴う不良債権の増加。米国銀行セクターの延滞率、不良債権比率ともに、S&L問題が深刻化した90年代初頭の水準を凌駕（図表3）。住宅市場に次いで、このところ商業用不動産市場でも大幅な価格下落へ。
- (4) 加えて、個人破産・企業倒産件数は本年に入り一段と増勢加速（図表4）。
- (5) 以上を総括すれば、金融危機は後退したのではなく、むしろ逆に深刻化へ向かっている懸念大。景気が底入れしたとの判断は依然として時期尚早のリスク。

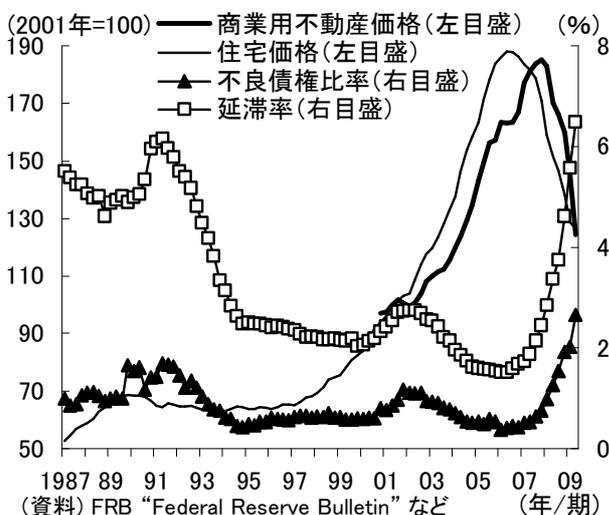
（図表1）米国預金保険準備金の推移



（図表2）米国倒産・問題銀行の推移



（図表3）米国不動産価格と延滞率・不良債権比率



（図表4）米国個人破産・企業倒産件数の推移

